

目 次

はじめに	4
A. この時計の特長	5
B. 安全なダイビングを行うために	6
⚠ 警告	
C. ダイビング使用禁止事項（必ずお読みください）	7
この様な場合には使用しないでください	
⚠ 注意	
D. 安全に使用するために（必ずお読みください）	11
1. 安全使用のための確認事項	11
2. 潜水前にチェックすること	15
3. 潜水中に注意すること	17
4. 潜水後の取り扱いについて	18
E. 各種の警告機能	19
F. 各部の名称	22
2 ドット表示部のシンボルマークとその意味	23

G. モード（各機能へ）の切りかえ方	26
H. 時刻カレンダーモードについて	28
I. 時刻とカレンダーの合わせ方	30
J. アラームモードについて	32
K. 潜水モードについて	34
L. この時計で使用されている“有効潜水”及び“無効潜水”について	38
M. サーフェスモードについて	42
N. ログモードについて	45
O. 転送モードについて	48
P. オールリセットのやり方	53
Q. 無減圧限界値について	55
R. 製品仕様	57
S. 電池寿命切れ予告機能・電池について	60
T. 末長くご愛用いただくために	64
U. 保証とアフターサービス	68
V. シチズンサービスセンター	70

はじめに

スキューバーダイビング、スキンドайビングは正しいルールに従って行えば、安全な水中散歩が楽しめますが、一方では潜水病や不慮の事故の危険をとまなうスポーツでもあります。必ず、正しい教育を受け、安全を確認しながらダイビングを楽しんでください。

本製品の使用にあたっては、取り扱い方法と注意事項を十分に理解して、正しくご使用ください。

万一この説明書に記載されていない取り扱いをした場合には、時計が正しく機能しない場合がありますのでご注意ください。

なお、本製品の電池交換を含めすべての修理は、「シチズンサービスセンター修理」となります。

お買い上げ店を通してシチズンサービスセンターにご依頼ください。

この取扱説明書は、大切に保存し必要に応じてご覧ください。

A. この時計の特長

本製品は、エレクトロニクス水深計を搭載した、デジタル表示による本格的ダイバーズウォッチです。

- ①この時計は腕に付けて水に潜るだけで、自動的に水深計測を行います。
- ②潜水中の水温及び潜水以外では気温測定が可能です。
- ③潜水中に各種ログデータを記録します。
- ④潜水終了後にコミュニケーションユニットを使用して、お手持ちのパーソナルコンピュータへデータの転送を行います。パーソナルコンピュータでのデータの確認ができます。

☆使用可能機種 NEC製 PC 9801シリーズ（キーボード、モニター含む。）

また、一部使用不可能な機種もあります。詳細については「コミュニケーションユニットアクアランドグラフ取扱説明書」をご覧ください。

- ⑤有効潜水終了後からの経過時間を（最大24時間）自動的に計測します。水面休息時間の目安としてご使用になれます。（サーフェス機能）
- ⑥安全なダイビングを行うために必要な、防水性能や各種の警告機能が組み込まれています。

B. 安全なダイビングを行うために=====

- ・安全なダイビングを行うためには、基本的な知識と技術が要求されます。基本的な知識と技術を習得するための教育を受けてください。
- ・「C. ダイビング使用禁止事項」(P. 7)、「D. 安全に使用するために」(P. 11)を十分に理解して、安全なダイビングをお楽しみください。

C. ダイビング使用禁止事項(必ずお読みください)=====

本製品をダイビングに使用するにあたっては、以下に記した「この様な場合には使用しないでください」を十分に理解して、安全なダイビングをこころがけてください。



警告

この様な場合には使用しないでください。

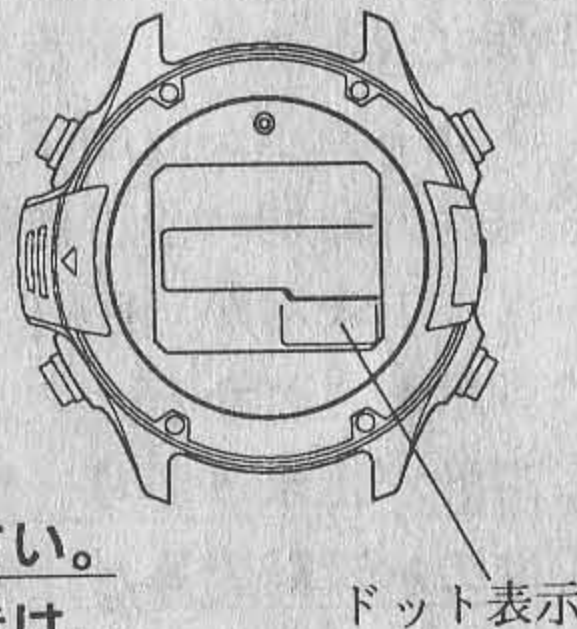
- a. 安全潜水に関する教育を受けていない場合は使用しないでください。
- b. 保証温度の範囲外では使用しないでください。
この時計の水深計測精度を保証する温度の範囲は10℃～40℃です。この範囲外で使用した場合には、正しい深度表示はされません。
- c. ヘリウムガスを使用する「飽和潜水」には絶対に使用しないでください。
ヘリウムガス気中で使用しますと、時計の故障や破壊の原因となります。
- d. 危険をともなう行動や状況の判断等には使用しないでください。
この時計は、水難等の予防機器や応急用の機器として設計されてはおりません。

- e. 圧力機器類及びバディシステムの代用として使用しないでください。
この時計は公的機関の認定を受けた計測器ではありません。あくまでも目安としての補助器具としてお使いください。
- f. 海拔4000mを越える所で使用しないでください。
標高の高い場所では水深計測はできません。
- g. 水深計測範囲外で使用しないでください。
- h. 安全潜水に関する警告機能が作動した場合には、すぐに時計の確認及び使用を中止してください。

各警告機能の対応方法は「E. 各種の警告機能」(P. 19)をご参照ください。

(潜水前)

- ①水感知センサーチェックが警告作動したとき：
ドット表示が「CHEK」表示と交互点滅となり知らせます。
- ②電池寿命切れ予告機能が作動したとき：
ドット表示が「BAT.」表示と交互点滅となり知らせます。
- ③異常気圧検出エラー警告が作動したとき：
ドット表示が「ERR」表示と交互点滅となり知らせます。
- ④時計が止まったり、異常が生じたときは、使用しないでください。
- ⑤他の水深計測器と比較して、水深精度が大幅に違っているときは、使用しないでください。



(潜水中)

①深度表示エラー警告機能が作動したとき：

ドット表示が「ERR」表示と交互点滅となり知らせます。

②電池寿命切れ予告機能が作動したとき：

ドット表示が「BAT.」表示と交互点滅となり知らせます。尚、電池寿命切れ予告の表示がされたときの、深度計測値は保証いたしませんので予めご了承ください。

③時計が止まったり、異常が生じたときは、使用しないでください。

④他の水深計測器と比較して、水深精度が大幅に違っているときは、使用しないでください。

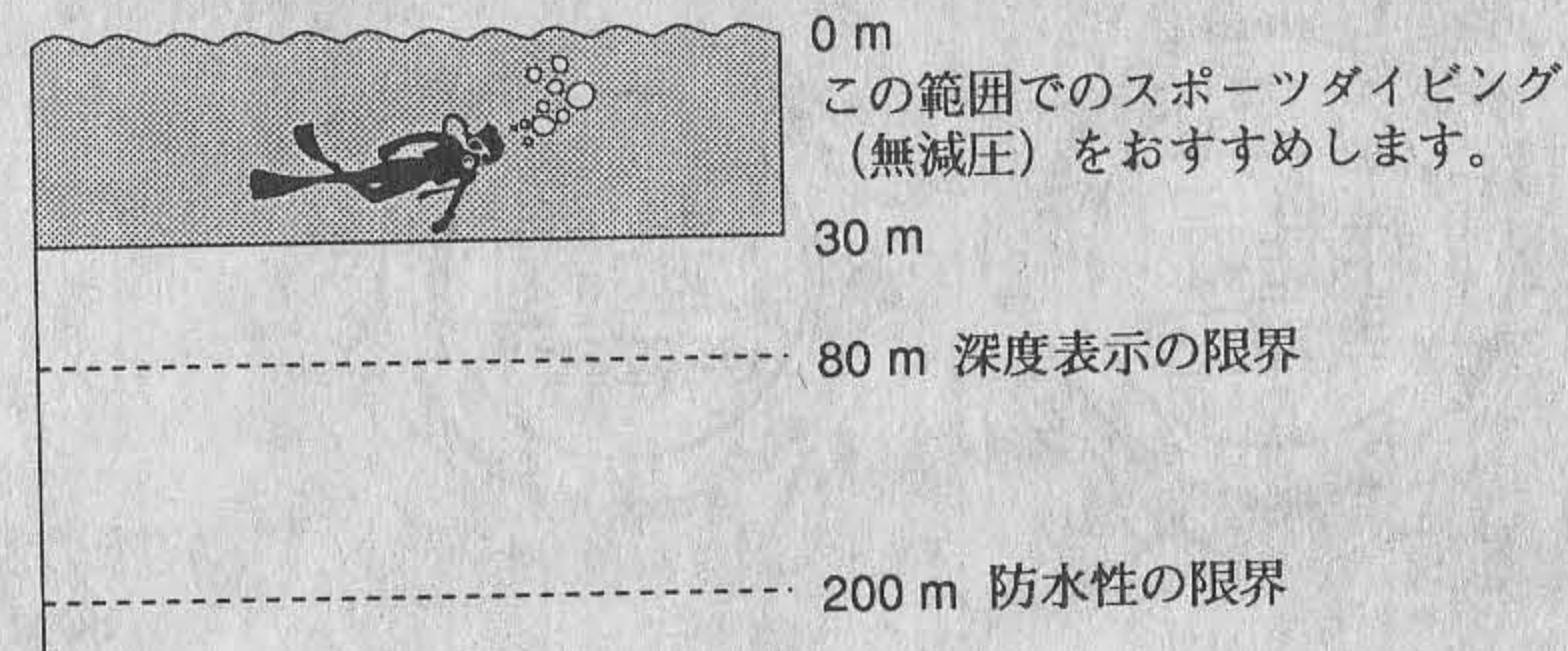
D. 安全に使用するために(必ずお読みください。)＝

⚠ 注意

1. 安全使用のための確認事項

a. この時計の深度表示は80mまでです。

この時計は、200mまでの防水性能を持っていますが、深度表示は80mまでです。安全なダイビングのためには、水深30m位までのスポーツダイビングをおすすめします。



b. この時計の水深計は、海水（比重1.025）を基準にして深度計測を表示します。

淡水（湖水等）で使用する場合には、換算が必要です。

〔例〕水深80mのとき海水の場合、深度80mを表示します。

淡水の場合は、実際より浅い78mを表示します。

注意

〔海水〕

〔淡水〕

0m



実際の深度
80m

0m



実際の深度
80m

c. 急速な潜降はさけてください。

正しい深度を読み取るには、スピードをゆるめるか停止をしてください。



d. 急速な浮上はさけてください。

5秒間に1.5m（1分間あたりの浮上速度18m：米国軍ダイビングマニュアルより）を越えたスピードで浮上をしますと浮上速度警告機能が作動し、ドット表示窓が「SLOW」表示となり、警告音が鳴ります。

安全な浮上速度を守ってください。

正しい深度を読み取るには、スピードをゆるめるか停止をしてください。

急速な浮上は、潜水病等人体に危険ですので絶対にさけてください。



e. 大幅な気圧や温度変化のある所での使用はさけてください。

時計が各通常モード（時刻カレンダーモード、サーフェスモード、ログモード、アラームモード）において1時間に1回の自動測定で、異常な気圧を検出したときドット表示が「ERR」表示と交互点滅を行います。

この場合、水深計測は行えません。

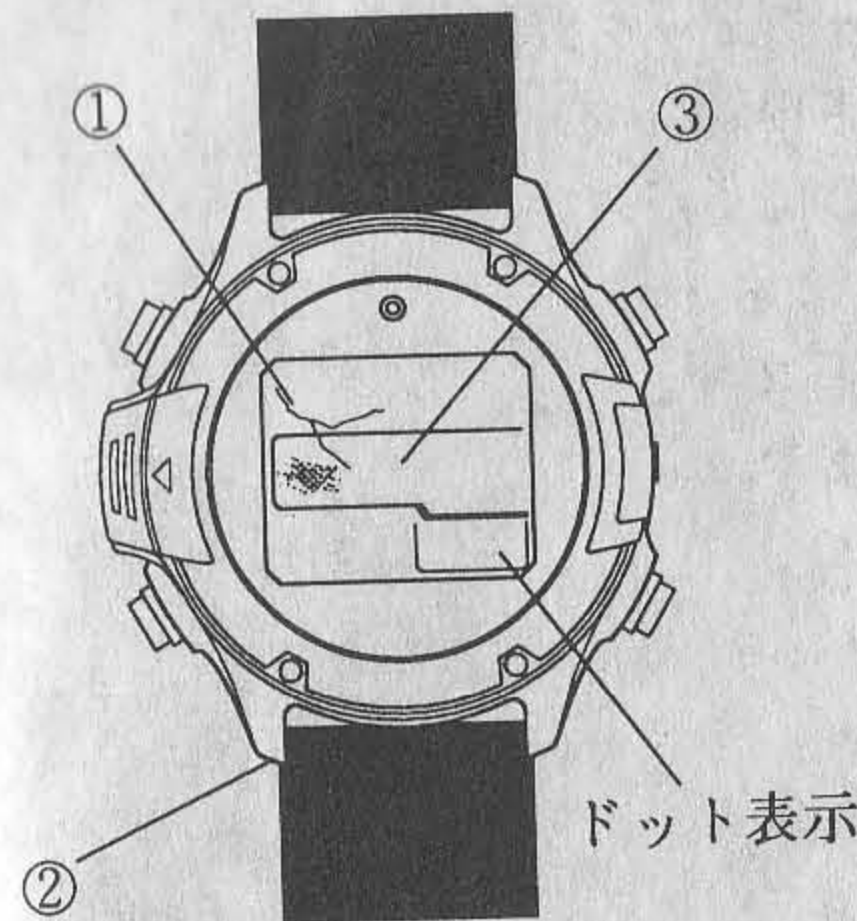
次の自動測定のときの結果、「ERR」表示が消えれば、時計は正常に使用できます。
自動測定……毎正時00分

f. 早め早めの電池交換をおすすめします。

この時計の電池寿命は、新しい電池挿入後、約3年です。（使用条件は「S. 電池について」（P. 61）をご参照ください）しかし、この電池寿命は、各種機能の使用頻度で大きく変化します。安全な潜水をお楽しみになるためにも、早めの電池交換をおすすめいたします。

2. 潜水前にチェックすること

ダイビングをされる際には、次の点をチェックしてください。
＜時計を点検する＞



①バンド・ガラスに傷、ヒビ、カケ等の異常がないか確認してください。

②バンドと本体がきちんと固定されているか確認してください。

③時刻・カレンダーが正しくセットされているか確認してください。

④ドット表示が「BAT.」表示と交互点滅されていないか確認してください。

「BAT.」表示と交互点滅していたら電池寿命切れ間近です。

→対応方法は「E. 各種の警告機能」（P. 19）をご参照ください。

⑤ドット表示が「ERR」表示と交互点滅していないか確認してください。

「ERR」表示と交互点滅していたら異常気圧検出エラー警告です。

→対応方法は「E. 各種の警告機能」をご参照ください。

⑥ドット表示が「CHEK」表示と交互点滅していないか確認してください。

「CHEK」表示と交互点滅していたら水感知センサーチェック警告です。

→対応方法は「E. 各種の警告機能」をご参照ください。

⑦サウンドモニター操作で、アラーム音が鳴るか確認してください。

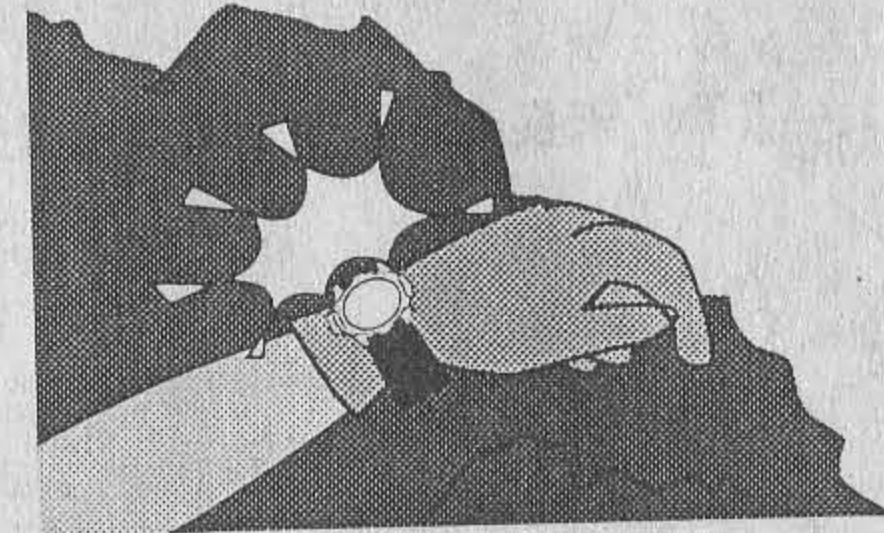
・**(M)** ボタンを押して、アラーム (ALM) モードにします。

・**(A)** ボタンを押し続けている間は、アラームモニターです。

この時、同時にアラームのON/OFFも切りかわります。

3. 潜水中に注意すること

- a. 水中では、外部環境・携帯条件により警告音が聞こえにくい場合がありますので、ご注意ください。
- b. 正確な水温を測定するには、潜水後1～3分後に時計が水温になじんだときが理想的です。
- c. 各種警告機能が働いているときは、その表示に従ってください。
- d. ダイビングの機材や岩等、硬いものにぶつけないよう注意してください。



4. 潜水後の取り扱いについて

- a. 時計に付着した海水・泥・砂等は、真水でよく洗い落した後、乾いた布等で水分を完全にふき取ってください。
- b. センサー部分は慎重にお取り扱いください。
詰まったゴミ・汚れ等を取り除こうとして、センサーカバーを外したり、先のとがったものでつついたりしないでください。
ゴミ等が入った場合は、真水で洗い流してください。
洗い流せない場合は最寄りのシチズンサービスセンターへご相談ください。
- c. 時計は薬品類に触れさせないでください。
- d. 一般的なお手入れに関しては、「T. 末長くご愛用いただくために」(P. 64)をご参照ください。

E. 各種の警告機能

この時計には、潜水にともなう危険やトラブルを防ぐために、**5種類の警告機能**がついています。

- ①浮上速度警告 ②深度表示エラー警告 ③電池寿命切れ予告
- ④水感知センサーチェック警告 ⑤異常気圧検出エラー警告

これらの警告機能は、あくまでも潜水行動のためのひとつの目安としてご利用ください。経験や体調、潜水状況により危険の度合いは異なりますので、警告がでないから安全ということではありません。

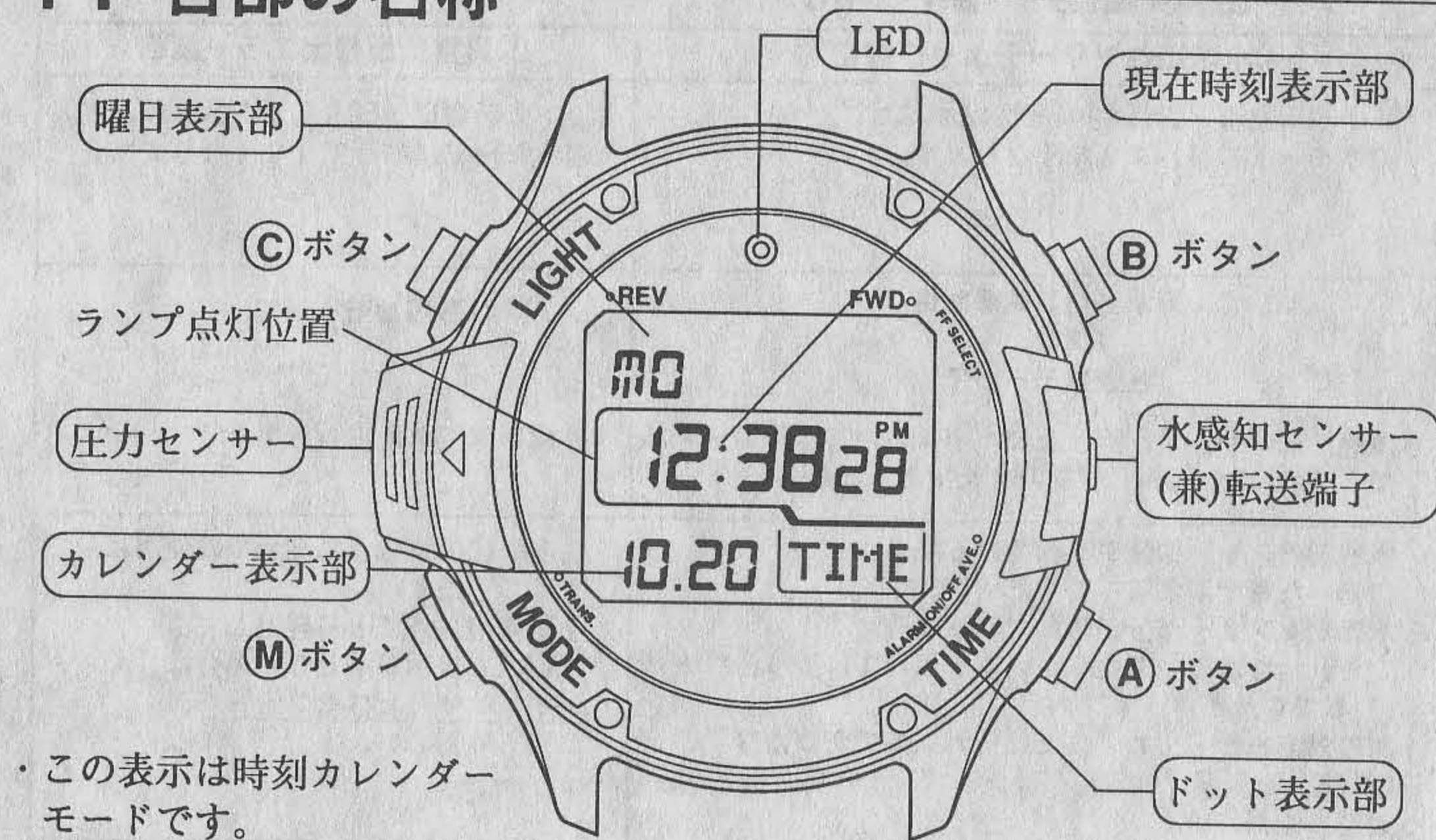
「各種の警告機能」

機 能	①浮上速度警告	②深度表示エラー警告	③電池寿命切れ予告
警告方法	ドット表示窓が「SLOW」表示と交互点滅します。 ・ピー、ピーという警告音が鳴り続けます。鳴り時間は5秒間です。	ドット表示窓が「ERR」表示と交互点滅します。 ・エラー表示中の水深精度は保証いたしません。	ドット表示窓に「BAT.」表示と交互点滅します。 ・潜水モードに移行できなくなります。 ・アラームが鳴らなくなります。 ・ランプが点灯しなくなります。
作動する条件	潜水モードで (水深計測表示) ・浮上速度が速すぎるとき、1秒間で0.3m以上の浮上を5秒以上連続して行ったとき。	潜水モードで (水深計測表示) ・浮上及び潜行速度が速すぎるとき1秒間で4m以上の潜行又は浮上を行ったとき。	潜水モード (水深計測表示) 又は、各通常モードで ・電池寿命切れ間近になったとき
対応方法	・浮上速度をゆるめてください。	・潜水モード終了後、通常モードにもどすことができます。問題ありません。	・電池交換の際、すべてのダイビングデータが消去されます。時計に必要なダイビングデータが記憶されている場合は、ログデータを記録しておくか、 <u>パーソナルコンピューター</u> へ転送を行ってください。

※この時計のアフターサービスは、その特殊な性能を維持するために各種の試験を行いますので、シチズンサービスセンター以外での電池交換・修理・点検はさけてください。

機 能	④水感知センサーチェック警告	⑤異常気圧検出エラー警告
警告方法	ドット表示窓に「CHEK」と表示されます。 ・潜水モードに移行できなくなります。	ドット表示窓に「ERR」と表示されます。 ・潜水モードに移行できなくなります。
作動する条件	潜水モード準備状態 又は、 各通常モードで ・水感知センサーが、陸上及び水中において水深1m未満で1時間以上「ON」状態のままであったとき。	各通常モードで ・異常な気圧を検出した場合
対応方法	・水感知センサー部分が濡れている場合 ：乾いた布でふき取ってください。 ・水感知センサー部分が汚れている場合 ：きれいな水の中で柔らかい布を用いて、擦り汚れを落してください。 上記の対応を行っても、またはそれ以外でたびたび「CHEK」と表示される場合はシチズンサービスセンターへお持ちください。	・高度約4000m以上の高所での使用はさけてください。 上記環境以外で1日経過しても「ERR」表示が消えない場合は、 <u>シチズンサービスセンター</u> へお持ちください。

F. 各部の名称



ドット表示部のシンボルマークとその意味

<モード表示>

TIME : 時刻カレンダーモード

ALM : アラームモード (ALARM)

TEMP : 温度測定中 (TEMPERATURE)

LOG : ログモード (プロフィールデータが記録されていないときの表示)

PLOG : ログモード (プロフィールデータが記録されているときの表示)

※ “プロフィールデータ” についての説明は「N. ログモードについて」(P. 45) をご参照ください。

 : サーフェスモード (SURFACE INTERVAL TIME) (有効潜水終了後の経過時間)

 : 転送モード (TRANSFER)

 : データ転送中

 $\longleftrightarrow$ 交互表示  : 潜水モード (ダイバーが泳ぎます)

 $\longleftrightarrow$ 交互表示 各モード表示 : 潜水準備状態

<  警告表示 >

 : 浮上速度警告

 : 各種チェック

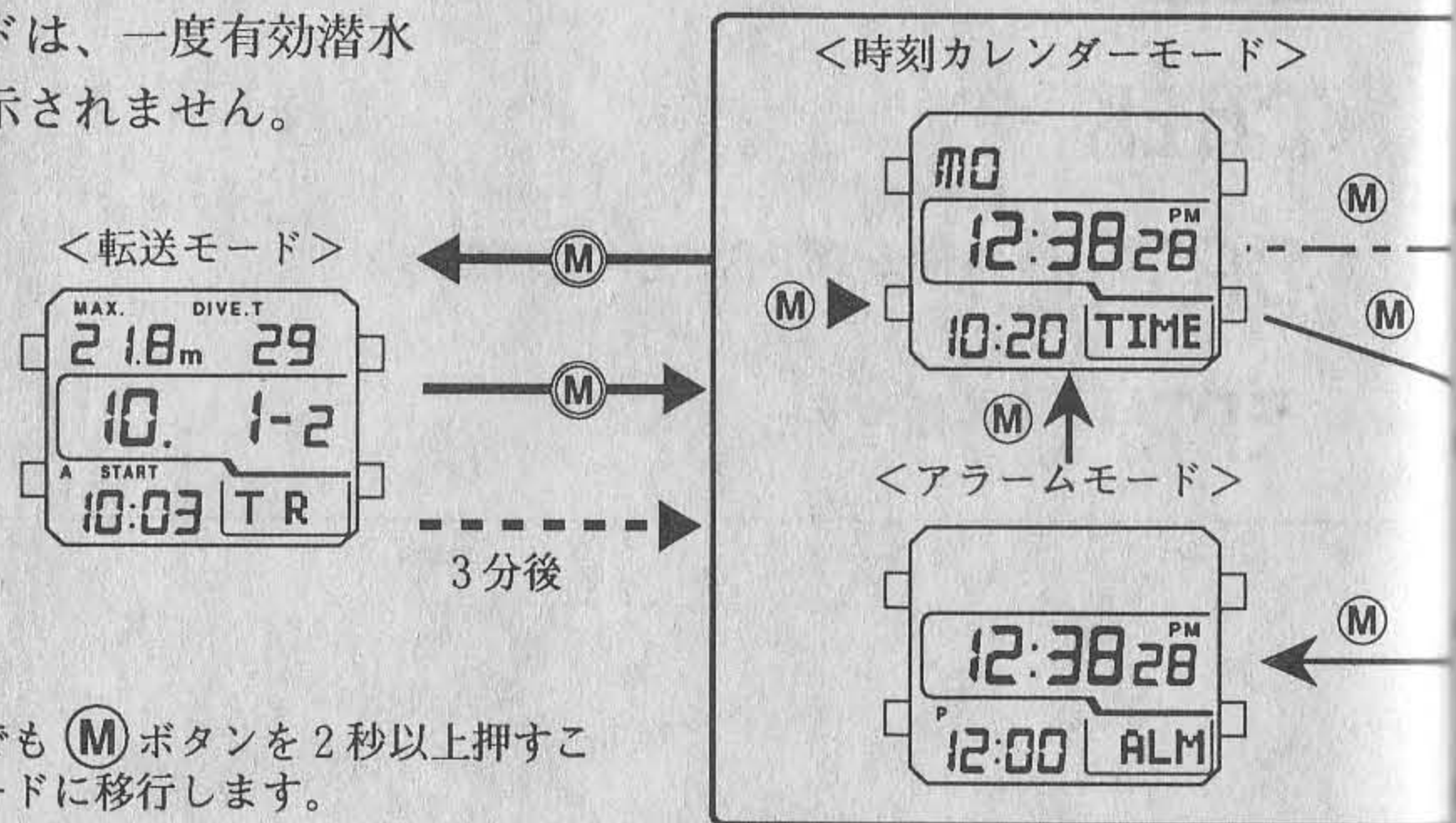
 : 電池寿命予告 (BATTERY)

 : 各種エラー (ERROR)

G. モード（各機能へ）の切りかえ方

「**M** ボタンを押す」及び「水感知センサーが水に濡れる」ことによりモードが切りかわります。

※サーフェスモードは、一度有効潜水を行わないと表示されません。



※どのモードからでも **M** ボタンを2秒以上押すことにより転送モードに移行します。

マークの意味：

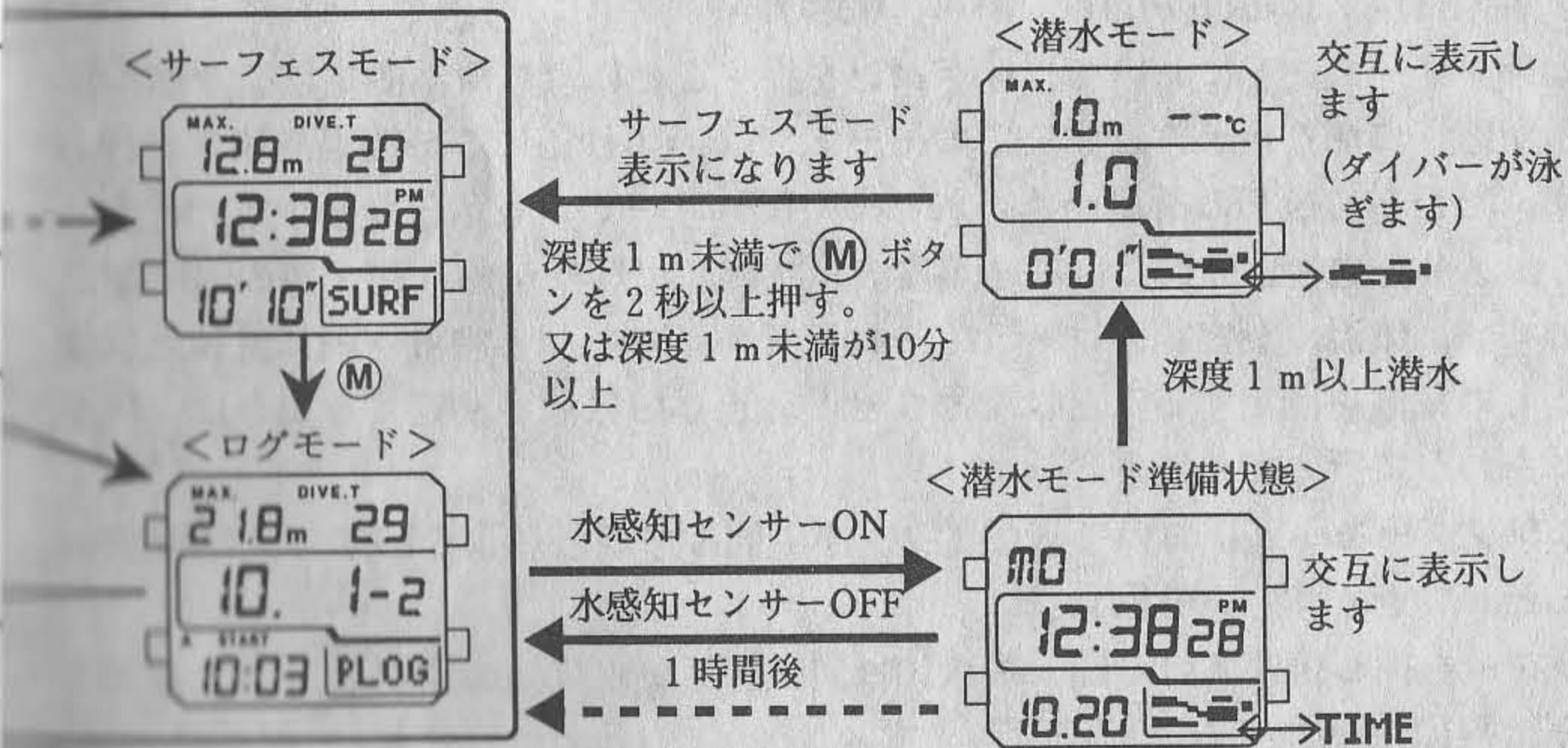
※どのモードからでも **M** ボタンを2秒以上押すことにより転送モードに移行します。

M : (M) ボタンを1回押す

M : (M) ボタンを2秒以上押す

←----- : サーフェスモードラン中のみ表示

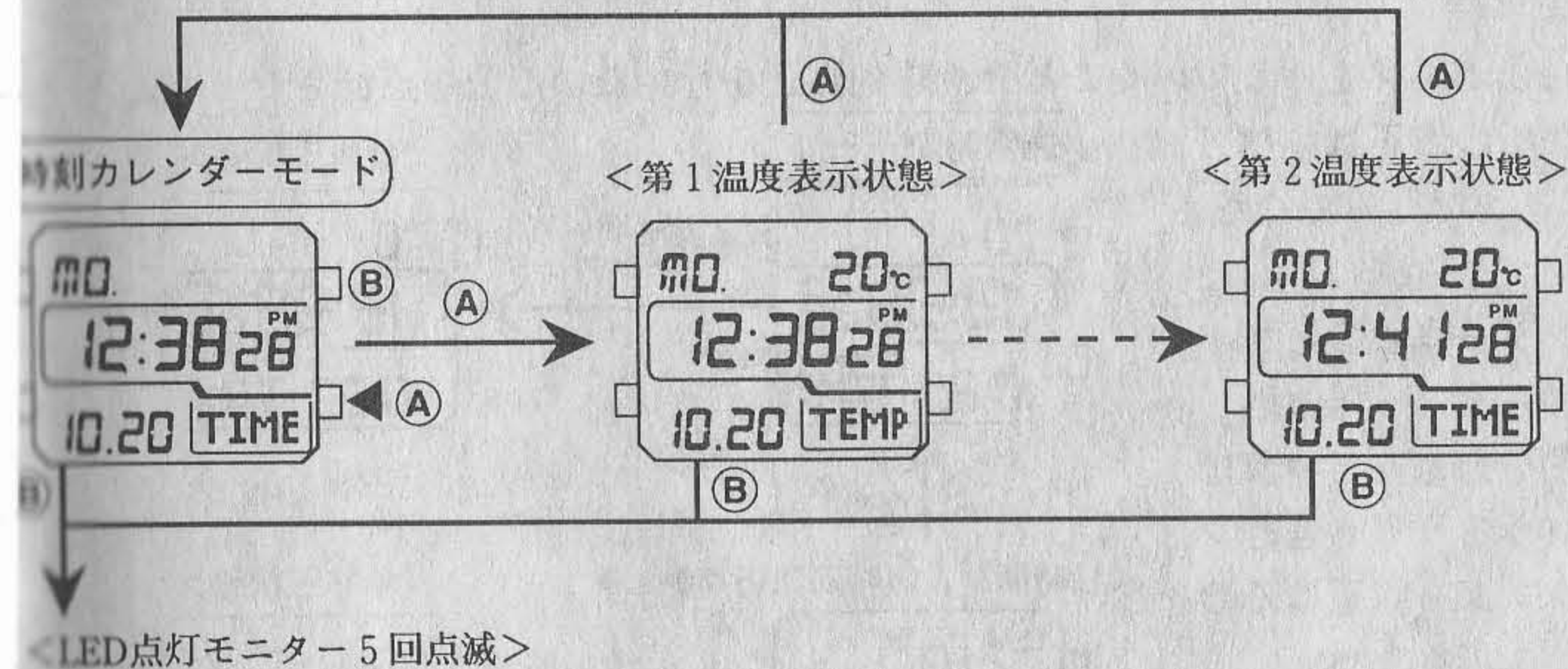
←----- : オートリターン



H. 時刻カレンダーモードについて

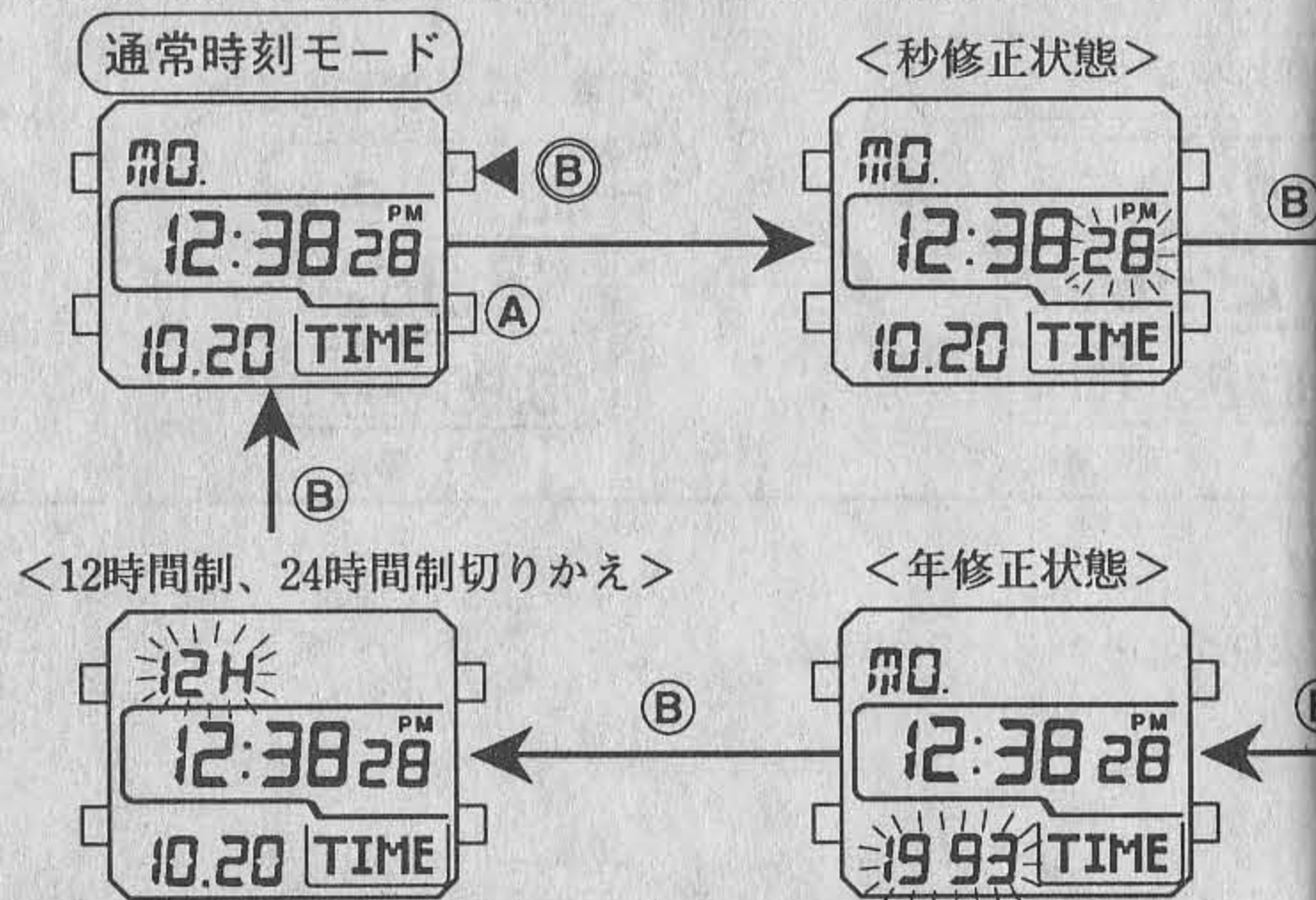
現在時刻及び現在カレンダーを表示する機能です。

- ・通常時刻モードにおいて、毎正時になると12時位置にあるLEDが3秒間時報動作を行います。（例：7時00分00秒、01秒、02秒）
- ・時刻カレンダーモードにおいて、**(A)**ボタンを押すことにより気温測定状態（第1温度表示状態）に切りかわります。このモードでは、10秒毎に3分間温度測定が行われます。ただし、最初の計測が行われるまでは、「...℃」表示となります。
- ・そして、3分経過後自動的に（第2温度表示状態）に切りかわり30分毎の温度測定を行います。気温の測定範囲は-5℃～40℃です。ただし、時計を腕に付けた状態では正しい気温を測定することはできません。正しい気温を測定する場合は、腕から時計を外して行ってください。
- ・時刻カレンダーモードにおいて、**(B)**ボタンを1回押すことによりLEDの点滅確認をすることができます。（5回）
- ・**(C)**ボタンを押し続けている間、最大10秒間ランプが点灯します。**(C)**ボタンを離してから、約1.5秒後にランプが消灯します。



1. 時刻とカレンダーの合わせ方

- ・時刻修正は、時刻カレンダーモードから(B) ボタンを2秒以上押して“秒”を点滅させます。
- ・更に(B) ボタンを押していくことで、時刻修正を行いたい部分を点滅させます。
- ・点滅ヶ所の修正はすべて(A) ボタンで行ってください。
- ・カレンダー修正のときに、きちんと“年(西暦)”を合わせていれば月末(うるう年も含む)のカレンダー修正は不要です。



⦿: 点 滅

J. アラームモードについて

アラームモードで、アラーム時刻を一度セットすると目覚し時計の様に毎日同じ時刻に鳴らすことができます。鳴り時間は15秒間です。

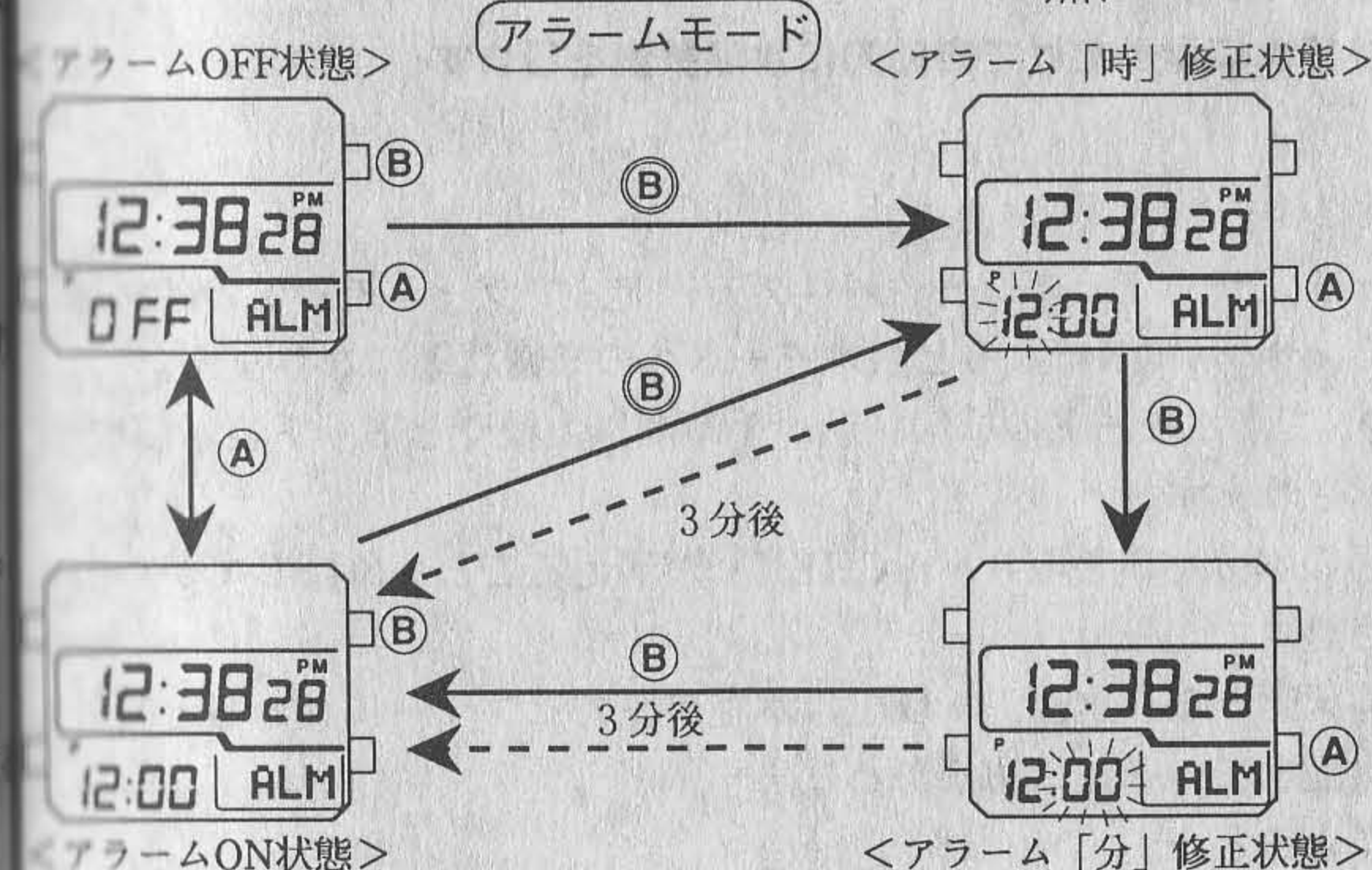
アラームのセット方法は、

1. **(M)** ボタンを押して、アラームモードにします。
2. **(B)** ボタンを2秒以上押し続けると、アラーム「時」を修正する状態（点滅）になります。
3. **(A)** ボタンで、アラーム「時」修正を行います。
4. **(B)** ボタンをもう一度押すと、アラーム「分」を修正する状態（点滅）になります。
5. **(A)** ボタンで、アラーム「分」修正を行います。
6. **(B)** ボタン又は **(M)** ボタンを押すとアラーム時刻セット完了です。

・アラームのON/OFF切りかえは **(A)** ボタンで行ってください。**(A)** ボタンを押し続けることによりアラームモニターができます。

アラーム音を途中で止めたい時はボタンを押してください。

(B) ボタンを2秒以上押し続けてください ◀-----: オートリターン
 ☼: 点滅



K. 潜水モードについて

水中深度測定を行う機能です。

この時計は、腕に付けて水に潜るだけで自動的に水深計測をします。

★ 潜水前

・時刻カレンダーモード／サーフェスモード／ログモード／アラームモードの各状態において、水感知センサーがONになると潜水モードへの準備状態になります。

※水感知センサーONで潜水モードの準備状態が1時間以上続くとドット表示部に「CHEK」と表示されます。

水感知センサー部の水分をふき取り、「CHEK」が消えることを確認してから潜水を始めてください。

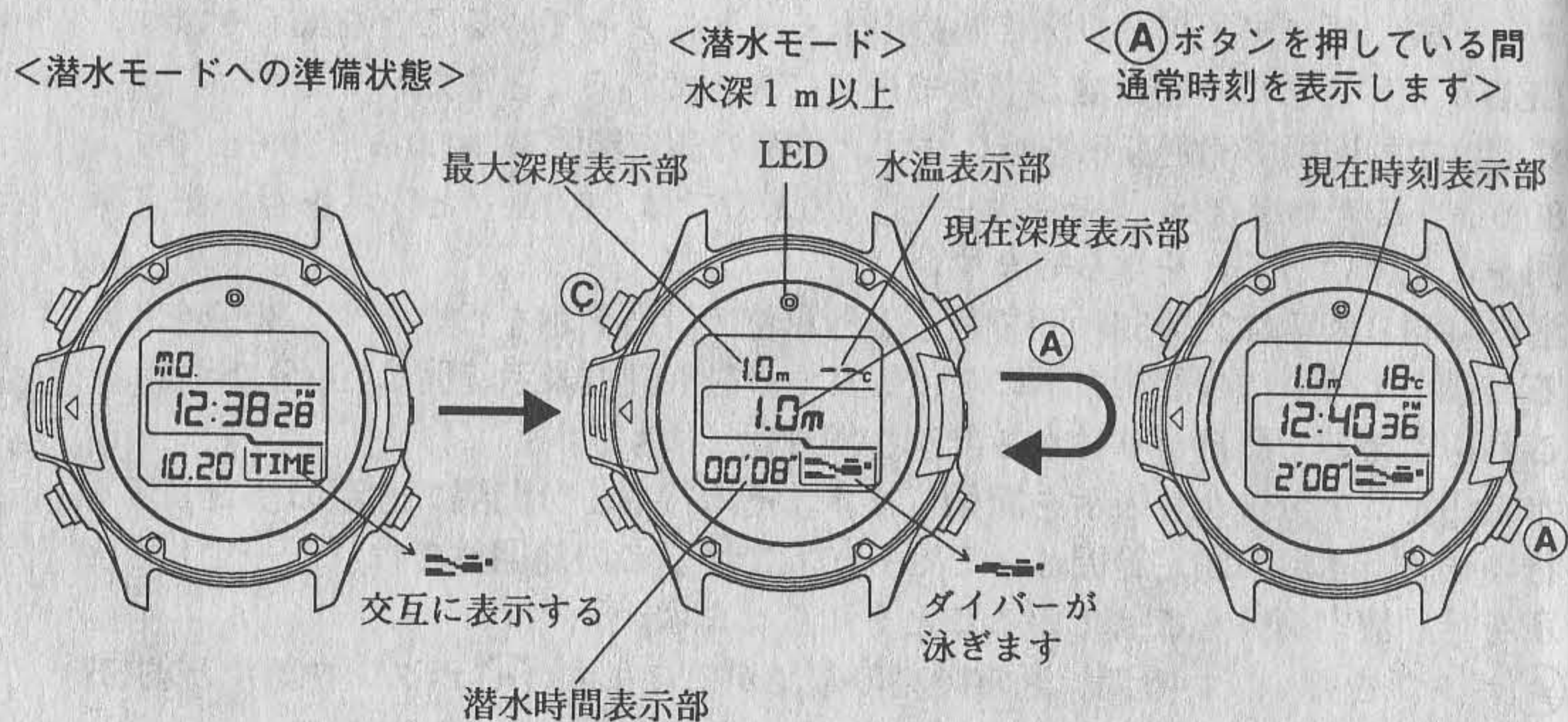
・潜水モードへの準備状態から、水深1 m以上の水圧が圧力センサーに加わると時計は深度表示の状態（潜水モード）に切りかわります。

時計が潜水モードに入ると……

★ 潜水中

- 1) ドット表示部にダイバーが泳ぎ始め潜水モードに入っていることを知らせます。
- 2) LEDが4秒ごとに1回点滅し潜水モードに入っていることを知らせます。
- 3) 深度は1秒間隔で測定表示を行います。水深の測定範囲は、1.0m～80.0mです。80.0mをこえた場合は「— —. —m」1.0未満では「0.0m」と表示を行い測定範囲をこえていることを知らせます。
- 4) 潜水時間の表示は29分59秒間で最小1秒単位で計測表示を行います。30分をこえると最小1分単位の計測表示に変化します。最大計測表示範囲は199分です。これをこえると、再び0秒から計測を繰り返します。
- 5) 水温測定は1分後から表示を開始します。その後も1分間隔で水温の測定表示を行います。水温の測定範囲は-5℃～40℃です。この範囲外では「—℃」と表示を行い測定範囲をこえていることを知らせます。
- 6) ① ボタンを押している間、通常時刻の確認ができます。② ボタンを離すと約1.5秒後に深度表示にもどります。
③ ボタンを押している間、最大10秒間ランプが点灯します。④ ボタンを離してから、約1.5秒後にランプが消灯します。

例：



潜水モードの解除について

★ 潜水後

1) 水深 1 m より浅い所 (深度表示: 0 m) に約 10 分以上いると潜水モードは自動的に解除されます。解除後のモードは、潜水条件により以下の様に異なります。

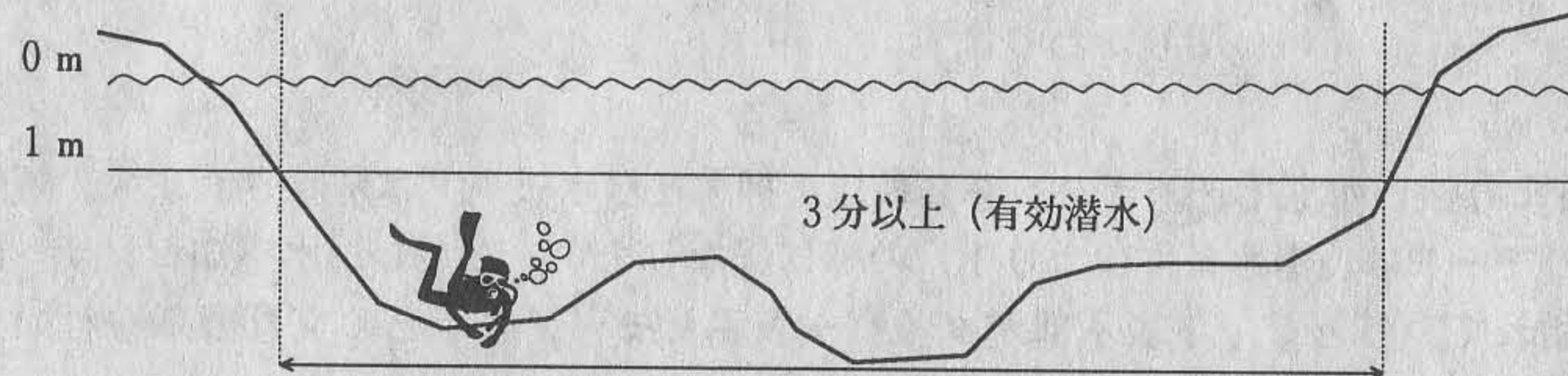
有効潜水の場合……サーフェスモード (水面休息時間計測) へ切りかわります。
無効潜水の場合……時刻カレンダーモード又は、前回からのサーフェスモードへ切りかわります。

2) 1 m より浅い水深で、(M) ボタンを 2 秒以上押すと潜水モードは解除されます。解除後のモードは、潜水条件により 1) の様に異なります。ただし、水感知センサー部が濡れているとドット表示部がダイバー表示とモード表示との交互表示を行います。

L. この時計で使用されている“有効潜水” 及び“無効潜水”について

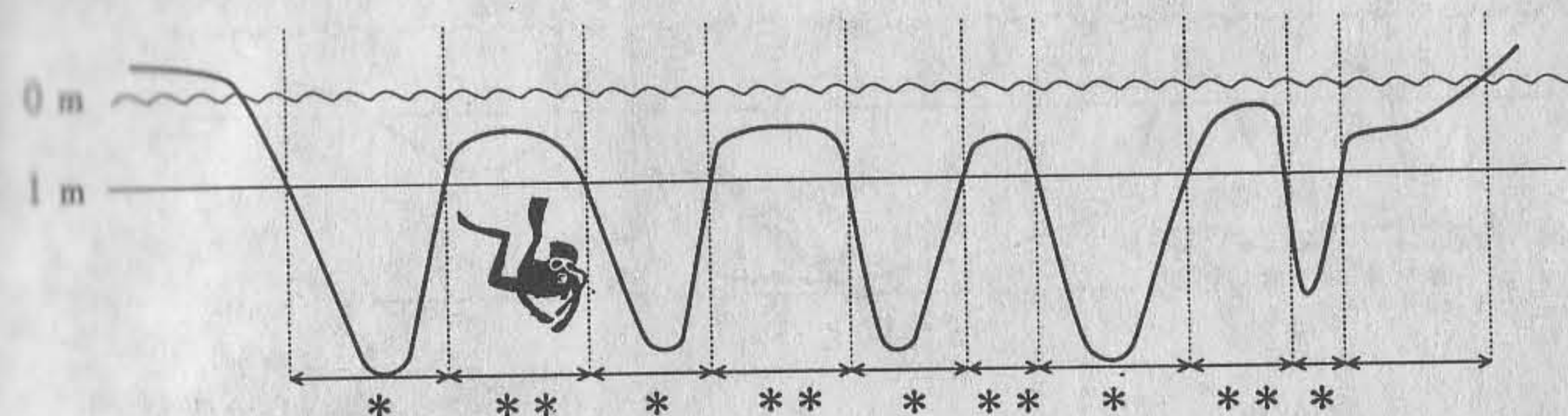
有効潜水：深度 1 m 以深での潜水時間が連続 3 分以上の潜水を含む潜水。

1 本の潜水例：（有効潜水）



無効潜水：深度 1 m 以深での潜水時間が連続 3 分間未満の潜水。

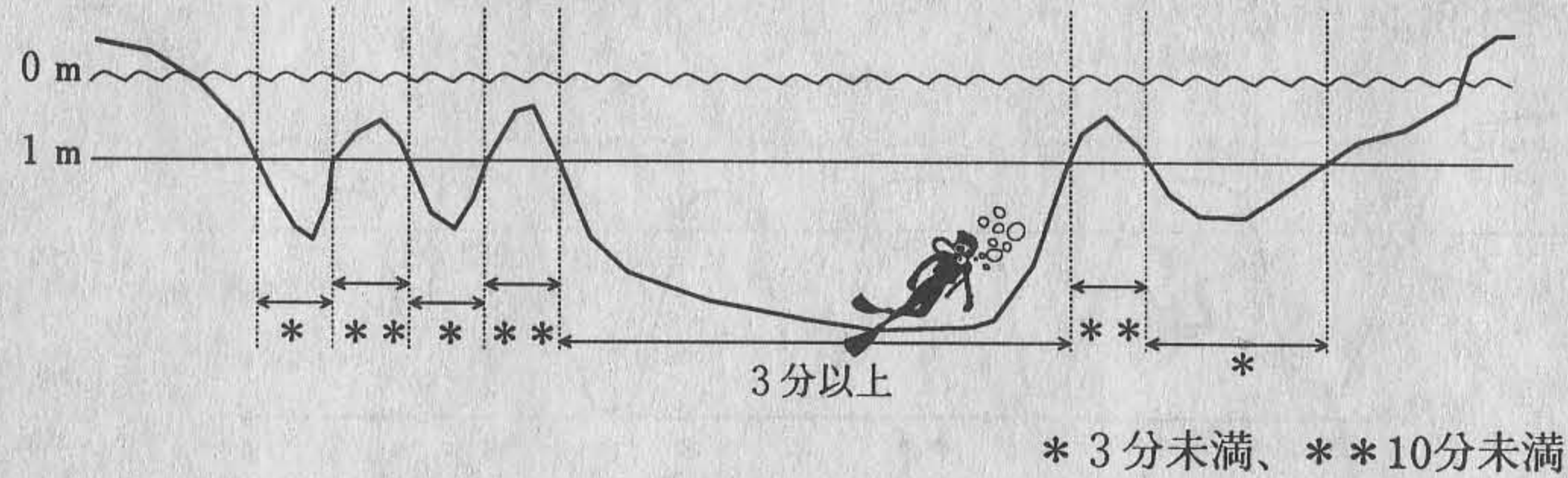
1 本の潜水例：（無効潜水）



* 3分未満、** 10分未満

1 本の潜水：この時計での 1 本の潜水は、1 m 以深の潜水を開始した時点から次に、1 m より浅い水深にもどった時点までとなります。
ただし、図の様に 1 m より浅い水深に 10 分未満の待機から再び 1 m 以深へ潜水する場合は 1 本の潜水として連続記録されます。

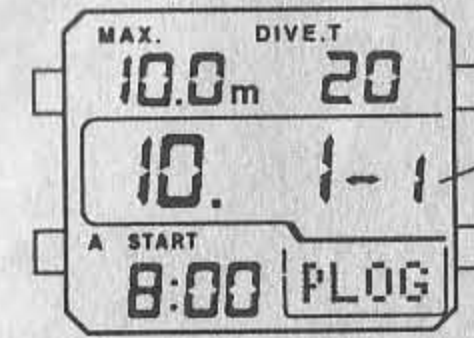
1本の潜水例：（有効潜水）



有効潜水及び無効潜水の時計での表示例

有効潜水を行った時の ログモードでの表示例

潜水番号に数字が表示され何本目の（有効）潜水かを知ることができます。



無効潜水を行った時の ログモードでの表示例

潜水番号にーが表示されます。



☆無効潜水を連続して何回も行った場合（素潜りなどの場合）1本の無効潜水として表示され、最大深度／平均深度／最低水温／潜水開始時刻／潜水終了時刻もすべてトータルで算出されます。ただし、無効潜水と無効潜水との間の水面休息時間が10分以上の場合は2本の無効潜水となります。

M. サーフェスモードについて

※1

最新の有効潜水終了時からの経過時間（水面休息时间計測）を自動的に計測する機能です。潜水終了後の休息時間の目安として使用することができます。

※1：「L. この時計で使用されている“有効潜水”及び“無効潜水”について」（P. 38）をご参照ください。

このモードは、

- ・有効潜水終了時点から、自動的に経過時間の計測を開始します。
→ “SURF” モード表示開始。（最大24時間まで）
- ・24時間の計測を終了すると、“SURF” モードは自動的に計測表示を終了し、次の有効潜水終了後まで、このモードは表示されません。
- ・有効潜水が終了するごとに、“0 秒” から計測を開始します。
- ・この計測は、プッシュボタン操作での計測開始及び計測停止は一切行えません。

＜有効潜水終了＞

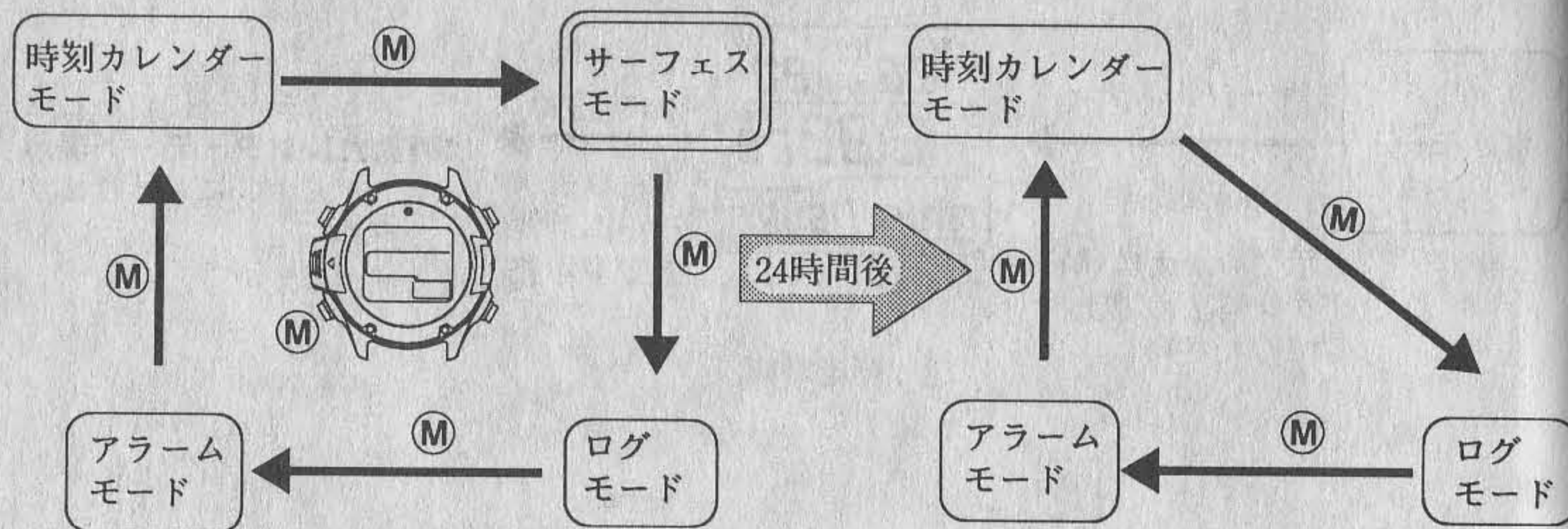
＜サーフェスモード表示状態＞



(モード表示の変化)

有効潜水終了後 (24時間以内)

～サーフェスモード表示開始～



※ (M) : 1回ボタンを押す

N. ログモードについて

ダイビングモードで潜水時に自動的にメモされたデータを後で確認する為の機能です。

ログデータ：最大深度／潜水時間／潜水月日／潜水番号／潜水開始時刻／平均深度／最
大水深／潜水終了時刻、以上8項目です。

最大30ダイビング分のログデータを記録することができます。

(31回目のデータ以降は、最も古いデータから消去され常に最新の30データ分が記録さ
れます。) ☆ログデータは時計のログモードで確認できます。

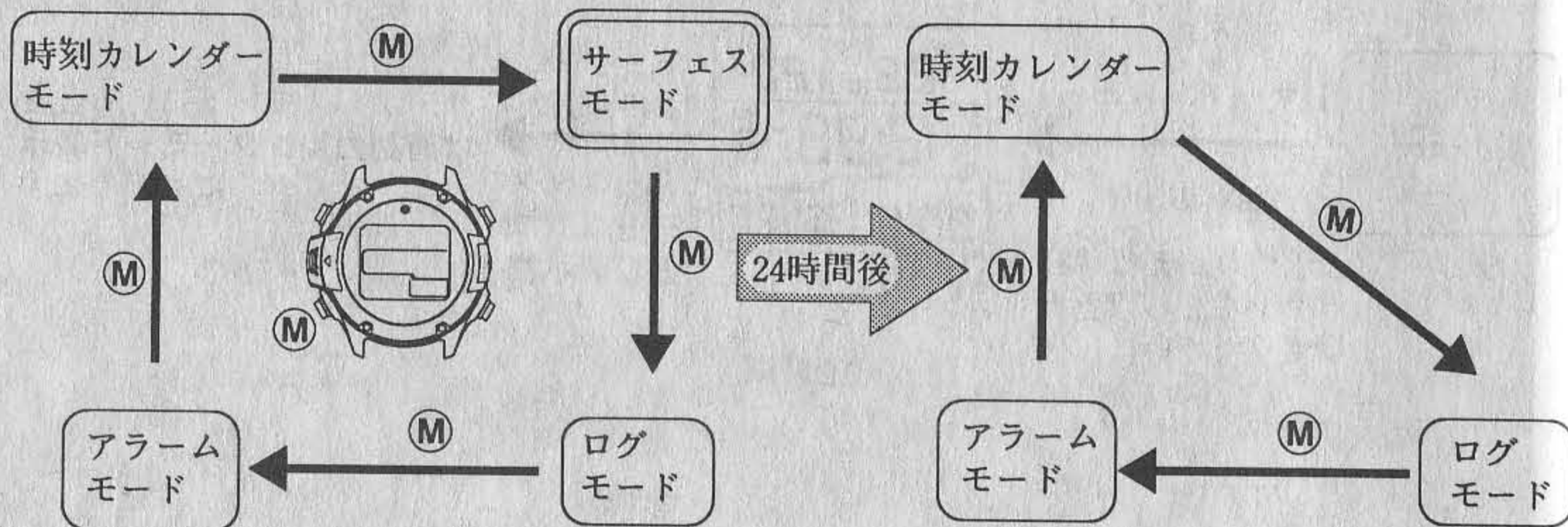
プロフィールデータ：潜水における、5秒ごとの深度データ及び5分ごとの水温データ
です。(時計では確認できません。パーソナルコンピュータに転送して確認してくださ
い。) ドット表示部に「PLOG」と表示されている時はプロフィールデータが含まれて
いるログデータです。

プロフィールデータは最新6時間分記録することができます。約6時間を越えると一番
古いプロフィールデータから順番に消去されます。したがって、潜水時間の総合計が約

(モード表示の変化)

有効潜水終了後 (24時間以内)
～サーフェスモード表示開始～

サーフェスモード表示終了
～サーフェスモード表示終了～



※ (M) : 1回ボタンを押す

N. ログモードについて

ダイビングモードで潜水時に自動的にメモされたデータを後で確認する為の機能です。

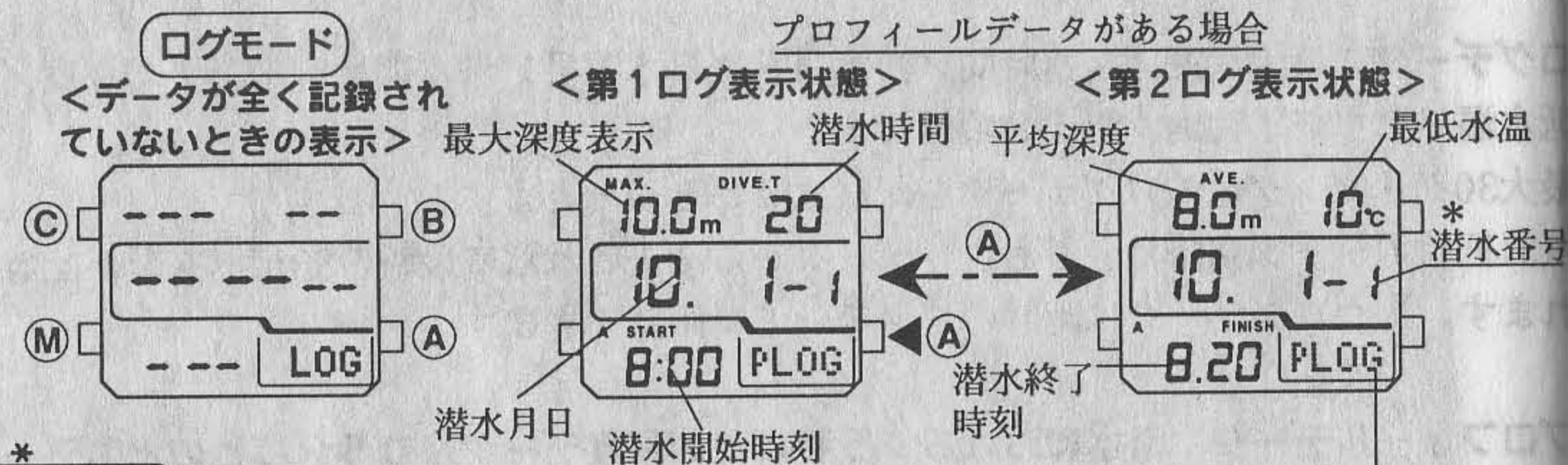
ログデータ：最大深度／潜水時間／潜水月日／潜水番号／潜水開始時刻／平均深度／最低水温／潜水終了時刻、以上8項目です。

最大30ダイビング分のログデータを記録することができます。
(31回目のデータ以降は、最も古いデータから消去され常に最新の30データ分が記録されます。) ☆ログデータは時計のログモードで確認できます。

プロフィールデータ：潜水における、5秒ごとの深度データ及び5分ごとの水温データです。(時計では確認できません。パーソナルコンピュータに転送して確認してください。) ドット表示部に「PLOG」と表示されている時はプロフィールデータが含まれているログデータです。

プロフィールデータは最新6時間分記録することができます。約6時間を越えると一番古いプロフィールデータから順番に消去されます。したがって、潜水時間の総合計が約

6時間をこえる前にパーソナルコンピュータへデータの転送を行うことをおすすめいたします。



*** 潜水番号**

潜水番号は最大9本までの表示となります。
1日以内に10本以上潜水を行った場合は、再び1本目に表示がもどります。
その後は、潜水開始時刻でその日の何本目の潜水かを判断してください。

プロファイルデータがあるときは「PLOG」と表示されます。
プロファイルデータがないときは「LOG」と表示されます。
☆「PLOG」と表示されているデータのみがパーソナルコンピュータへ転送できます。

プロファイルデータがある場合には、「第1ログ表示」と「第2ログ表示」の2つに分けて表示します。図の示すとおり **①** ボタンを押して切りかえます。

「第1ログ表示」……最大深度／潜水時間／潜水月日／潜水番号／潜水開始時刻

「第2ログ表示」……平均深度／最低水温／潜水終了時刻

ログデータの呼び出し方法は、

- ・ **②** ボタンを押すと、最新のログデータから古いログデータへ順番に呼び出すことができます。
- ・ **③** ボタンを押すと、現在表示されているログデータから新しいログデータへ順番に呼び出すことができます。

ログデータを全て消去する方法は、

- ・ **②** ボタンと **③** ボタンを同時に2秒以上押ししてください。アラーム音と共にすべてのログデータ及びプロファイルデータを消去することができます。

0. 転送モードについて

パーソナルコンピュータにダイビングデータを転送するための機能です。

1. 転送モードへは潜水モード以外のどのモードからも **(M)** ボタンを2秒以上押して移行することができます。

2. このモードでは、**コミュニケーションユニット、およびRS-232Cストレートケーブル**を使用してパーソナルコンピュータへデータ転送をすることができます。

3. 使用可能機種：

NEC PC-9801シリーズ（一部使用不可能な機種があります。）

4. 転送されるデータ（PLOGと表示されたデータ）：

最大深度／平均深度／潜水時間／潜水年月日／潜水番号／潜水開始時刻／最低水温／潜水終了時刻の8項目と5秒ごとの深度データ／5分ごとの水温データです。

各接続について：

各接続を行う前に必ず「コミュニケーションユニットアクアランドグラフ取扱説明書」を読んでください。

① パーソナルコンピュータの電源はOFFになっているのを確認してください。

② パーソナルコンピュータとコミュニケーションユニットをRS-232Cのストレートケーブルで接続します。

③ パーソナルコンピュータの電源を入れ、アクアランドグラフを起動します。

④ 時計を転送モードにして転送したいデータを呼び出します。

（呼び出し方法）

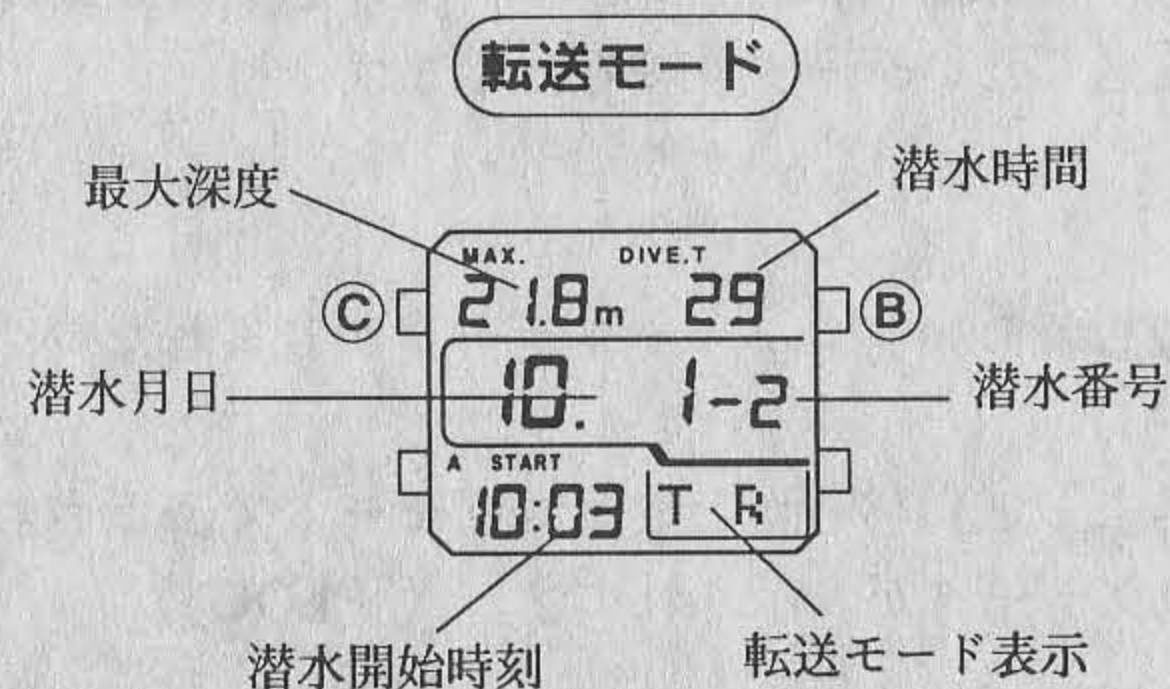
このモードに移ると、まず最も新しいプロフィールデータが含まれたログデータが表示されます。

ただし、ログモードから転送モードに移ったときはログモードで表示されていたプロフィールデータが含まれたログデータが表示されます。（「PLOG」）

6. ② ボタンを押すと、最も新しいプロフィールデータの含まれたログデータから順番に呼び出すことができます。

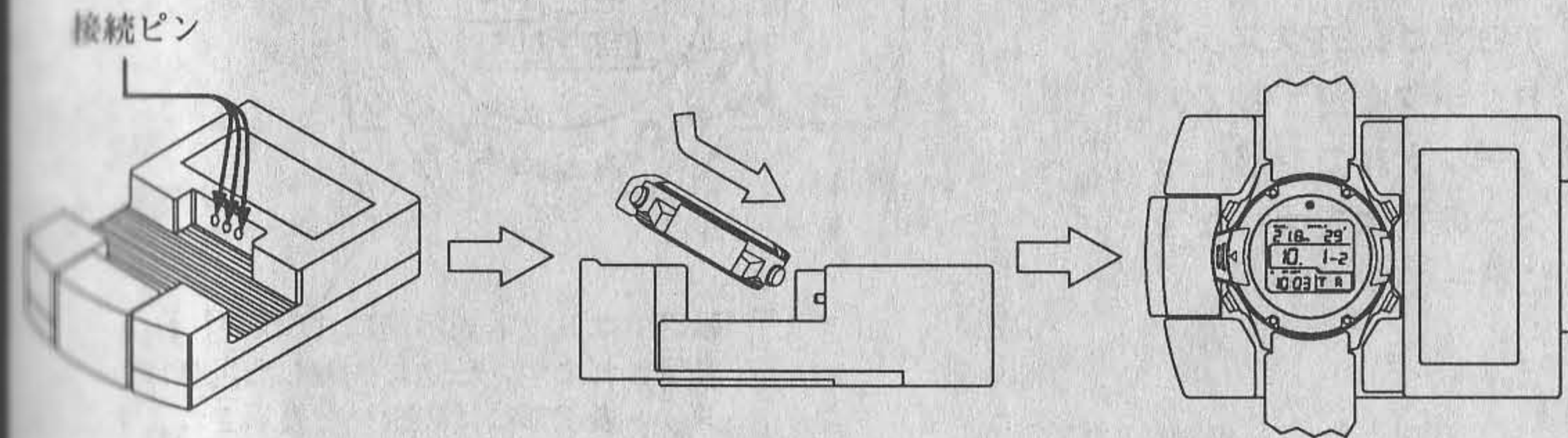
③ ボタンを押すと、最も古いプロフィールデータの含まれたログデータから順番に呼び出すことができます。

それぞれのボタン操作で、パーソナルコンピュータへ転送する希望のプロフィールデータを選択してください。



時計の転送端子を3本の接続ピンのうち、中央の接続ピンに接触させるようにして、時計をセットします。(下図参照)

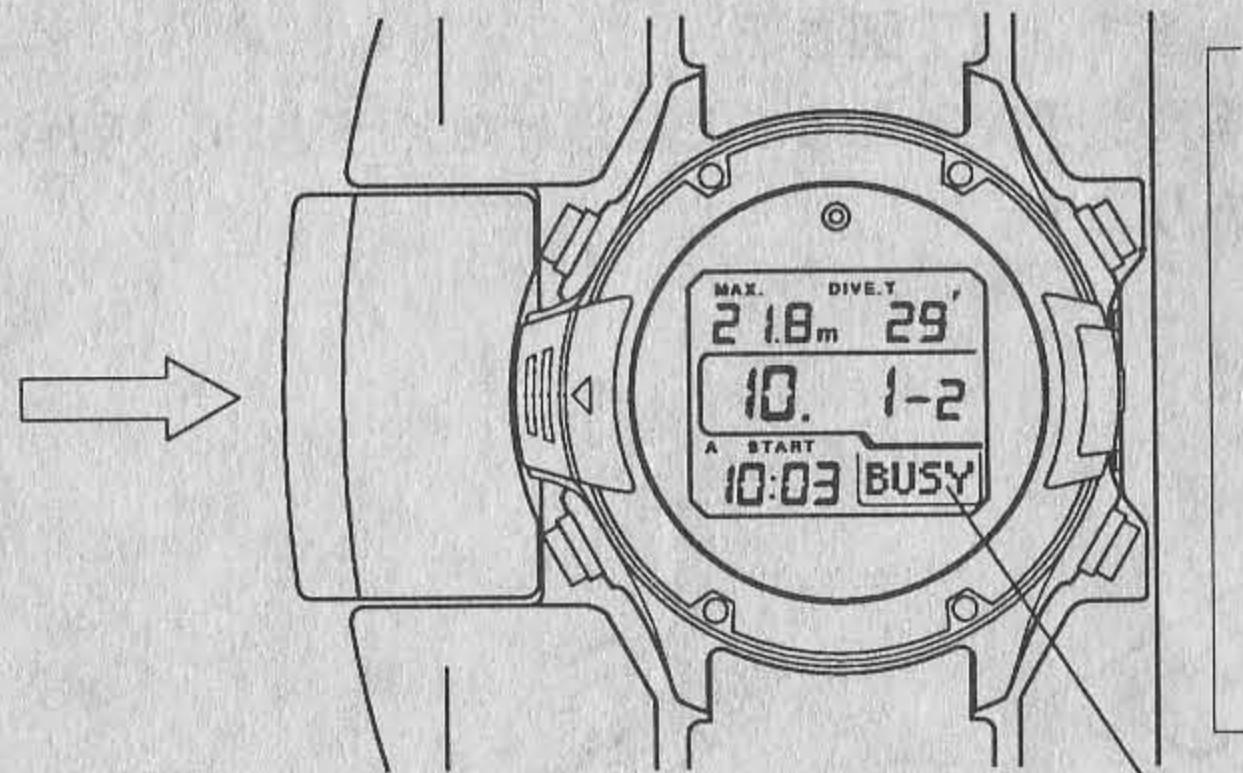
☆転送端子3本に、手で触れることはさけてください。汚れにより転送不良が発生する可能性があります。



7. はずし方

時計のバンド部分を持ち、時計の左側を持ち上げて静かに持ち上げます。

RS-232Cケーブルを外すときは、アクアランドグラフを終了して、パーソナルコンピュータの電源を切った後に行ってください。



転送中はドット表示部に「BUSY」と表示されます。転送に失敗した場合は、ドット表示部に「ERR」と表示されますので各接続部を確認の上、再度転送をやり直してください。

P. オールリセットのやり方

時計が普段にない異常な動作、表示等が発生した際にはオールリセットを行ってください。

☆オールリセットの方法

- 1) 4ヶのプッシュボタンを同時に2秒以上押してから離してください。
→時計は全点灯表示になります。



【4つのボタンを同時に押す】

【どれかひとつプッシュボタンを押して離します】

【アラームが鳴りLEDが3回点滅します】

2) いづれか1つの、プッシュボタンを押して離します。

→・この時、オールリセットの完了を知らせる確認音が鳴ります。

・確認音の後にLEDが3回点滅します。

時計の表示は、時刻カレンダーモードになり、1月1日/月曜日/AM12時00分になります。

☆オールリセットを行うときの注意

- ・オールリセットを行うと、ログデータ及びプロフィールデータがすべて消去されますので予めパーソナルコンピュータへ転送するかログブックへ記録しておいてください。
- ・4ヶのプッシュボタンを同時に離すときに、水感知センサーに触れてしまうとドット表示部に「CHEK」と表示されます。その後に全点灯表示となります。以後は通常のオールリセットと同様の操作を行ってください。

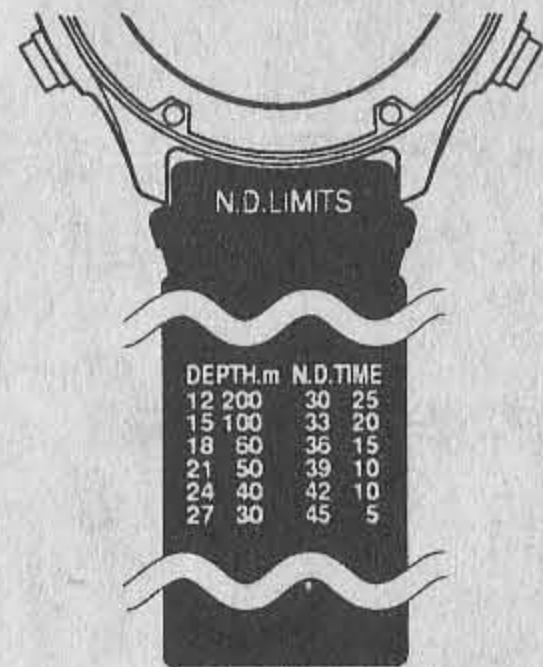
Q. 無減圧限界値について

(No Decompression Limits)=====

ダイバーが潜水を終わって浮上する途中、減圧のための停止をしないで海面に浮上できる範囲は、潜水深度と潜水時間により決まります。この範囲を示したものが無減圧限界値 (No Decompression Limits)です。

この時計のバンドには、米国海軍ダイビングマニュアル (1985版) に基づいた無減圧限界値 (No Decompression Limits)が印刷してあります。(モデルにより印刷されていないものもあります)

NO Decompression
Limits
(無減圧限界値)



※この無減圧表は1回の潜水のためものです。

—無減圧限界値の読み方—

DEPTH.m (最大深度m)	N.D.TIME (無減圧時間)
12m	200分
15m	100分
18m	60分
21m	50分
24m	40分
27m	30分
30m	25分
33m	20分
36m	15分
39m	10分
42m	10分
45m	5分

(例)

21mの深さまでもぐった時の潜水時間が50分以内であれば、減圧のための停止をせずに浮上してもよいというようにお読みください。

注 意

- ・体調や個人差により無減圧限界時間は異なります。この時計に印刷されている無減圧限界値は潜水行動の目安としてのみご使用ください。
- ・減圧停止の必要がある潜水をする場合には、必ず潜水専用マニュアルに従ってください。

R. 製品仕様

■型式：水深計、温度計、水感知センサー付デジタル式ダイバーズウォッチ

■水晶振動数：32,768Hz (Hz＝1秒間の振動数)

■時間精度（常温携帯精度）：月差±20秒以内

■水深計測精度：±〔表示値の3%＋30cm (1ft)〕以内

ただし、使用温度範囲一定であること

※使用温度範囲：10℃～40℃ (50°F～140°F)

ただし、水深計測精度は携帯温度の変化の影響を受けます

■表示方法：デジタル式表示

■時刻系作動温度範囲：－10℃～60℃ (14°F～104°F)

■表示機能：

・時刻：時・分・秒

・カレンダー：月・日・曜

・温度表示（ログモードで表示される最低水温も含む）－5～14℃±3℃以内／
15℃～40℃±2℃以内（1℃単位）

・ 現在深度表示：1.0m～80.0m（10cm単位）＜1.0m未満は0 m表示＞
： 4 ft～260ft（1 ft単位）＜1 ft未満は0 ft表示＞

・ 最大深度表示：1.0m～80.0m、4 ft～260ft

・ 平均深度：1.0m～80.0m、4 ft～260ft

・ 潜水月日：月・日

・ 潜水開始時刻：時・分

・ 潜水終了時刻：時・分

・ 潜水時間：0分～199分

・ 潜水回数：1～9

■ 保有機能：

・ 時刻カレンダーモード ・ サーフエスモード ・ 電池寿命切れ予告機能

・ 水感知センサーチェック警告機能 ・ アラームモード ・ ログモード

・ 浮上速度警告機能 ・ 異常気圧検出エラー警告機能 ・ 潜水モード ・ 転送モード

・ 深度表示エラー警告機能

・ 外装機能：

・ 200m潜水用防水構造

・ 水感知センサー（兼転送端子）

・ 使用IC：C/MOS-LSI 2個

・ 使用電池：リチウム電池 1個（電池No.280-205, コードNo. CR2025）

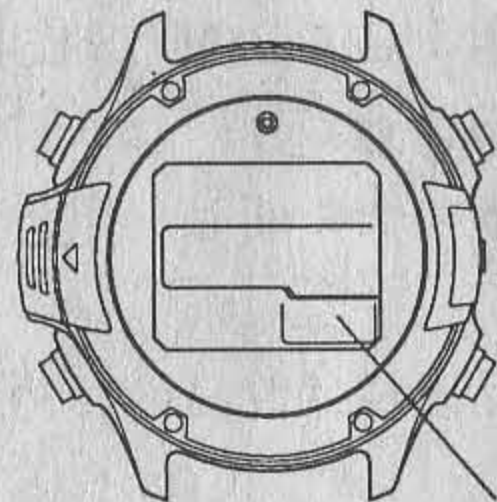
・ 電池寿命：新しい電池組み込み後 約3年

※製品仕様は改良のため予告なく変更することがあります。

S. 電池寿命切れ予告機能・電池について

1. 電池寿命切れ予告機能

- ・この時計には電池交換時期を知らせる電池寿命切れ予告機能がついています。
- ・ドット表示が「BAT.」表示と交互点滅となり、電池切れ間近であることを知らせていますのでただちに電池交換及び点検をサービスセンターにご依頼ください。



ドット表示

注 意

潜水モード以外での通常表示で電池寿命切れ予告機能が作動すると、潜水モードへの切りかえはできなくなります。また、潜水モードで電池寿命切れ予告機能が作動した時、潜水モードを解除すると電池寿命切れ予告機能が消えることがあります。やはり、電池寿命切れ間近ですので、お早めに電池交換をご依頼ください。

2. 電池について

a. 電池寿命について

この時計の電池寿命は、新しい電池組み込み後、約3年です。
使用条件の目安は次の通りです。

- ①ダイビング回数：100回／年
- ②1回の潜水時間：35分間
- ③データ転送：1回／週

※電池寿命は各種機能の使用頻度により大きく変わります。

ダイビング目的以外で時計を濡らすと水感知スイッチがONとなるため、その時間分電池寿命が短くなります。ご注意ください。

※尚、ダイビング回数による電池寿命の目安は以下の通りです。

35分間・200回／年の場合：2.2年

35分間・300回／年の場合：1.8年

これは、他の条件は同じとしたときの電池寿命の目安です。

b. 最初の電池

お買い上げの時計にあらかじめ組み込まれている電池は、機能・性能をみるためのモニター用電池です。

お買い上げ後3年に満たないうちに電池寿命が切れることがありますのでご了承ください。

c. 電池交換

①電池交換はすべて「メーカー修理」となりますので、お買い上げ店を通してシチズンサービスセンターにご依頼ください。

②電池交換の際は、防水検査等のチェック及び、必要に応じてパッキング類の交換も実施します。

③電池交換により、ログデータ及びプロフィールデータは消えてしまいますので、あらかじめパーソナルコンピューターへ転送するかログブロックへ記録しておいてください。

④電池寿命切れの電池をそのままにしておきますと、漏液等により故障の原因となります。早めに交換することをおすすめいたします。

⑤長期間海外で使用する時は、場所により旅行先でのアフターサービスが受けられない場合がありますので、お出かけ前の電池交換をおすすめいたします。

⑥電池交換及びそれに付随する検査・部品交換は、保証期間内でも有料となります。

☆注意

・電池を保管する場合は、幼児の手の届かない所に保管してください。

・万一電池を飲み込んだ場合は、ただちに、医師にご相談ください。

T. 末長くご愛用いただくために

1. 防水性について

- a. 電池交換を含め、すべてのアフターサービスは「メーカー修理」となります。
- b. この時計の防水性を保持するために、電池交換時、または1～2年ごとに点検を受けてください。

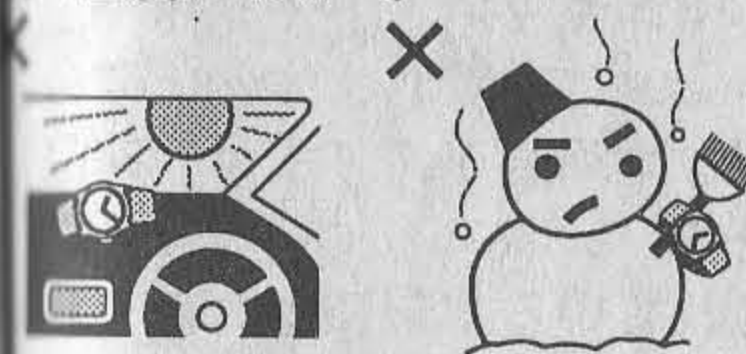
2. 圧力センサーについて

- a. センサーカバーは、圧力センサーを保護するためのものですから、絶対にはずさないでください。
- b. また、センサー部に砂・ゴミ・ほこりなどが入らないように注意してください。もし入った場合には真水等で洗い落してください。
落す際、アルコール・ガソリン・シンナーなどの薬品類は使用しないでください。
- c. 洗い落せない場合には、最寄りのシチズンサービスセンターへご相談ください。

バンドについて

- a. 通常、陸上で使用する時には通気性を良くするため、バンドに指1本入る程度の余裕を持たせて使用してください。
- b. バンドにヒビ等の異常がある時は、そのまま使用せず、必ず新しいバンドと交換してください。
- c. バンド交換の際は、時計本体とバンドをつなぐバネ棒も一緒に交換してください。

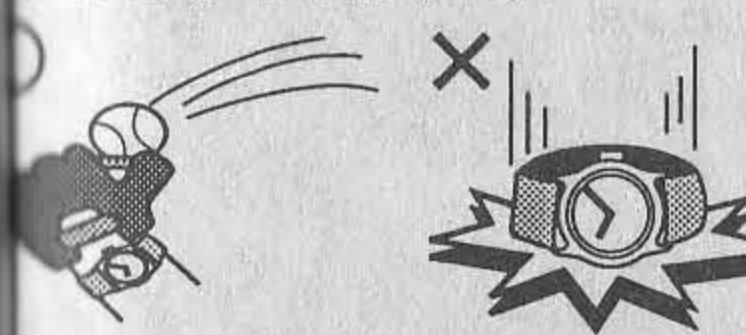
温度について



・直射日光に長い間さらしたり、車のダッシュボードの上など高温になる所や寒い所に長く放置しないでください。

故障の原因になったり電池寿命が短くなります。時間の進み・遅れや性能も影響を受けることがあります。

ショックについて



ゴルフ・キャッチボール等軽い運動でのショックは問題ありません。

床面に落す、又はぶつける等の激しいショックは故障や破損の原因になりますのでご注意ください。

6. 静電気について

時計に使われている I C (集積回路) は静電気に弱い性質を持っています。強い静電気を受けた場合、表示が狂うことがありますのでご注意ください。

7. 薬品類・ガスについて

×



化学薬品やガスの中でのご使用はおさげください。シンナー・ベンジン等の各種溶剤及びそれらを含有するもの（ガソリン・マニキュア・トイレ用洗剤・接着剤等）が時計やバンドに付着しますと、変色・溶解・ひび割れ等を起こす場合があります。薬品類には十分注意してください。

又、体温計等に使用されている水銀に触れたりしますとケース・文字板・バンド等が変色することがありますのでご注意ください。

8. 保管について

長期間ご使用にならないときは、汗・汚れ・水分等をよく拭き取り、高温・低温・多湿の場所をさけて保管してください。

又、電池寿命切れの電池を入れたまま長期間放置しますと、電池の漏液により機械部品が損傷する場合がありますので、ご注意ください。

9. 時計は清潔に

ケース・ガラスについた汚れや水分は柔らかい布等で拭き取ってください。ケースの裏ボタンやバンドは、肌着類と同様に直接肌に接しています。汚れをそのままにしておきますと、皮膚の弱い方はかぶれる場合があります。又、衣類の袖口を汚すこともありますので、汗やほこり等の気づかぬ汚れに対してもご注意の上、常に清潔にしてご使用ください。

＜バンドのお手入れ方法＞

・金属バンド

石鹸水等をつけた歯ブラシで部分洗いしてください。

・プラスチック・ゴムバンド

水で汚れを洗い落としてください。

溶剤等の使用は変質の恐れがありますのでさけてください。

U. 保証とアフターサービス

1. 保証について

取扱説明書にそった正常なご使用状態で、保証期間中に万一故障が生じた場合には、別紙の保証書の規定に従い、無償修理致します。ただし、故障修理以外の責任は一切負いません。又、シチズンサービスセンター以外での保守・修理に起因する故障等は、保証の対象外です。

2. 修理用部品の保有期間と対応について

当社は時計の機能を維持するための修理用性能部品を通常7年間を基準に保有しております。ただし、ケース・ガラス・文字板・ボタン等の外装部品は、外観の異なる代替部品を使用させていただく場合がありますので、予めご了承ください。

3. 修理可能期間について

通常のご使用で、シチズンの修理用性能部品の保有期間中であれば保証期間を過ぎても、有償修理が可能です。

なお、長期間のご使用による精度の劣化は、修理によっても初期性能の復元が困難な場合もありますので、あらかじめご承知ください。

4. 長くご愛用いただくために定期的な診断と部品の交換を行なってください。

この時計の性能を保つために1～2年ごとに定期的な点検を受けてください。

ただし、ご使用又は環境状況でこの期間は著しく異なりますので、修理の可否についてはシチズンサービスセンターへご相談ください。

尚、点検と保証規定外の部品交換に関しては有料となりますのでご了承ください。

*時計を激しくぶつけてガラスにキズをつけてしまう等、通常使用以外のダメージを時計に与えた時などは、ご自身で判断しないでシチズンサービスセンターへご相談ください。

又、保証やアフターサービス等に関して不明な点がございましたら、シチズンサービスセンターへご相談ください。

*この時計は、電池交換を含め一切のアフターサービスが「メーカー修理」となります。シチズンサービスセンター以外での電池交換・アフターサービスに関しては一切責任を負いかねます。